

# MORI LIVING

## 上質なるディテールが生み出す最上のレジデンス Roppongi Hills Residences

居心地のよさは、その空間を統べるさまざまな要素によってもたらされる。クリエイターが暮らす、まるでギャラリーのようにアートピースが飾られた最上階のレジデンスを訪ねて、“六本木ヒルズに住まう理由”について伺った。

PHOTOGRAPHS BY MIE MORIMOTO TEXT BY TOSHIYA MURAOKA

六本木ヒルズレジデンスの素晴らしさは、「ディテールにある」と、最上階に暮らすクリエイターは語ってくれた。もちろん、東京の中心地という立地の至便さは強調してもしすぎることはないのだが、氏の語る“ディテール”には、立地とは異なるふたつのポイントがある。

まず挙げられるのが、六本木ヒルズらしい繊細なホスピタリティ。つまり、居住者それぞれに合わせたサービスのこと。バイリンガルのコンシェルジュがフロントに待機し、24時間多様な要望に対応してくれる。当然、不在時の宅配物の受

領ほか、クリーニングの取り次ぎなども行っている。あるいは、医療サービスとして、健康相談室も設置されている。ホテルに住まうよりも快適な日常。六本木ヒルズのカフェやレストランを自宅のキッチンへの延長のような感覚で使うことができるのも、サービスのひとつと呼べるかもしれない。新たにロビースペースの改修が行われたC棟では、ヒルズスパのカフェサービスが利用できるようになった。

もうひとつのポイントが、デザインやファシリティそのものの質の高さ。エレ

ベーターが効率よく動いているか？ あるいは館内の温度は適切か？ 日々の暮らしをサポートする施設には、高い水準の快適性が安定的に要求される。その一方で、最上階の46階に薪ストーブが設置されている遊び心。本物の薪がパチパチと静かに燃える音を聞くことのできる愉楽が、空間のクオリティを一層引き上げている。薪は、フロントに常備されているそうだ。

さらに、最上階でありながら窓を開け、ベランダで風を感じることのできる喜び。ベランダの植栽には、配水システムが完

備されている。あるいは世界的なガーデンデザイナー、ダン・ピアソンが手がけたルーフトップガーデンには、独特の世界観が広がっている。隔絶された階上の世界で、グリーンのある暮らし。クオリティ・オブ・ライフは、まさしくディテールに宿っている。

そして、「シンプルなデザインこそが実はとても重要」だとデザインを生業のひとつとするクリエイター氏は語ってくれた。壁には、ゲルハルト・リヒターをはじめ、世界的な傑作が独自の審美眼によって飾られている。そのために必要な



リビングは吹き抜けになっている。2階の踊り場から。高い天井に白い壁。暖炉を囲むように置かれた大きなソファが、寛ぎの場所。



洗面所には、ヴォルフガング・ティルマンスなどの作品。

のが、シンプルな白い壁なのだ。華飾こそが価値であった時代は、はるか過去のものとなっている。シンプルで、いかようにも使える上質な汎用性こそが、レジデンスに求められるクリエイティブな価値なのだろう。当然、その白い壁は塗装仕上げ。白い壁を引き立てるダークブラウンの床も、窓際に設えられたキッチンのシンクも、特殊なデザインが施されたものではない。だが、過不足のない上質さを湛えていることこそ、日々の生活には必要なのだ。

上質なディテールの積み重ね。言葉にしてしまえば簡単に響いてしまうが、その要求されるレベルの高さを想像していただきたい。暮らすことは多様な瞬間の積み重ねであり、まさしくディテールの集積。だからこそ、細部が重要になってくる。その暮らしに寄り添うように、上質さを担保することが、六本木ヒルズレジデンスの価値。そのクオリティの高さに惹かれてクリエイティブな仕事に就く友人たちも移り住んできていると氏は教えてくれた。このハイクオリティを共有することのできる隣人の存在もまた、希有な得難いものなのだろう。



本物の火が灯った暖炉と並ぶのは、ローズピアノ。天井まで続く高い窓から、やわらかな光が入る。



ミュージシャンでもある住まい手。ギターの名作も。

ゲルハルト・リヒターの作品が飾られたダイニング。家具類も含め、シンプルだからこそ作品が映える。



## 六本木ヒルズレジデンス

Roppongi Hills Residences



フロントでは24時間きめ細やかなサービスが受けられる

### クリエイティブと寛ぎが同居する環境に暮らす

国際色豊かな文化が薫り、人々が行き交い交流する街、六本木ヒルズ。森美術館はじめ、シネマコンプレックス、高級ブランドショップから気軽なカフェまでが揃う東京の文化都心という環境の中で、六本木ヒルズレジデンスでは、住む人の快適性を最優先に空間をデザインし、くつろぎに満ちた新しい「暮らし」のスタンダードをお届けしています。

お問い合わせ：  
TEL 0120-52-4032(森ビル株式会社 住宅事業部)

[www.moriliving.com](http://www.moriliving.com)

